

平成 28 年度 国立中央青少年交流の家

青少年教育指導者専門研修～「体験活動推進員」の養成を目指して～

平成 29 年 1 月 21 日（土）～1 月 22 日（日） 1 泊 2 日

○目的

地域における青少年の体験活動をより一層推進するため、既に「放課後子ども教室・クラブ」や土曜日の教育活動などに参画している教育活動推進員，サポーター等の人材を対象に，体験活動の重要性を青少年に普及させる地域の指導者を育成する。



○参加者

近隣市町村の放課後子ども教室・クラブの指導員及び関係者 計 19 名

○事業の内容

（1）「放課後子ども教室・クラブの意義」（講義）

講師：静岡大学イノベーション社会連携推進機構 地域連携生涯学習部門 教授 阿部 耕也氏

文部科学省が提言している「学校・家庭・地域の協力推進事業」の一環としての「放課後子ども教室」の概要や多様なプログラムの事例についての説明があった。続いて，静岡県社会教育委員会の「地域力を活かした家庭教育支援」と「学校を支える地域と社会教育」の考え方について学んだ。それから，地域が支える子どもの学びや育ちの様々な取り組み事例として，「だがしや楽校」「学区のお宝さがし」「ためタル君プロジェクト」「棚田再生プロジェクト」等を動画やスライド写真を使ってのわかりやすい説明を受けた。最後に，共同する体験，経験を共有するためにも，子どもの居場所としての「放課後児童クラブ」の重要性が今後ますます増すであろうと講話を締めくくった。



（2）「レクリエーション」（実習） 講師：居場所づくり研究所 代表 田井中 正志氏

ジャンケンレクから始まり，指遊び・指体操等の指を動かすレクを行った。レクの前後に立位体前屈をするとレク後の方が格段に体が前屈していることには，参加者も驚いていた。指をしっかりと動かすと柔軟性が増すことは勉強になった。続いて，頭の体操レクを行った。まずは，親指＝1，人差し指＝2，中指＝4，薬指＝8，小指＝10として1～10まで足し算していく。例えば，3は単独の指がないので，親指と人差し指を立てて，合計で3とする。この要領で1～10までを片手で表していく。指体操までは付いてくれた参加者も，この頭の体操になる



とかなり苦戦していた。それから、両手を使い、片方がグー・片方がパーとし、声だしとともにグー・パーを入れ替える。また、片方がチョキ・片方がグーとして、交互の入れ替え、さらに、片方がチョキ・片方がパーの入れ替え等、徐々に難易度が上がっていった。次は、新聞紙を使ってのお手軽レクを行った。身近にある物を使って行うレクは、大変参考になった。最後は、歌に合わせて拍手や膝たたきゲームを実施した。うさぎとかめ・もしもしかめよ・茶摘・汽車ポッポ・案山子・ふるさと等を歌いながら、個人やグループごとにいろいろなパターンを学んだ。



(3) 「子どもとふれあうために」(講義・実習)

講師：常葉大学 短期大学部 保育科 准教授 遠藤 知里 氏

講義の始めは、参加者の緊張をほぐす為に新聞紙「フリスビー」をした。ポンポンと新聞紙を弾いたり、手のひらに新聞紙を乗せ、8の字に手を動かした。次に、左右交互に新聞紙に切り込みを入れ、破らないように広げて大きな輪を作った。一番大きな輪に参加者が全員入り、新聞紙列車を動かした。子どもたちでもコミュニケーション作りに使えるレクであると、参加者は感心していた。



演習の後は、「子どもに相応しい放課後の過ごし方とは」「放課後児童クラブ、学童保育の難しさ」「子どもへのかかわりで困るとき」の3つのテーマについてワークシートに記入した。その後、大きな一つの円になって座り、全員が発表し意見交換した。参加者自身が持っているいろいろな思いや、多岐に渡る悩みが出された。遠藤講師からは、「子どもが何かをやるときは必ず理由がある」「～したかったんだねと、気持ちをまず受け止めることから始めよう」とアドバイスがあった。最後に、放課後だからこそ「やすらぐ」時間、「ひとりで過ごす」時間、「一対一で話せる」時間を大切にしようと参加者に呼びかけていた。



《受講生の感想から》

- 明日すぐにできる、実践できる内容でよかった。
- 少人数で意見交換や交流ができ、実情を踏まえ講師の先生とお話できて大変有意義であった。他のクラブの現状も分かった。
- 放課後児童クラブに携わる指導者の研修は決して多くないので、継続を望みます。

《成果と課題》

- 実践で使える手法を数多く習得し、放課後児童クラブの指導者としての資質・能力向上につながる研修となった。
- 長く経験を積んだ指導者にとっても、初めて体験する研修方法や新たな切り口からの講義によって、学童保育に対して再考する機会となった。
- 土日で1泊の研修を企画したが、参加者全員が通いでの受講となった。また、土曜日の午後からは、放課後児童クラブの受入も各施設行われており、参加者の確保が課題となった。来年度は、市役所子育て支援課の研修と連携し、平日の午前中に実施していく予定。